

主体的に学ぶ生徒を 育成するジグソー法と プレゼン-10の実践-

滋賀県守山市立明富中学校

なかにしかず お
中西一雄

【実践の概要】

本研究では、生徒がより主体的に取り組む必然性を高める手立てとして「ジグソー法による学習活動」と「プレゼンによる表現活動」を取り入れた実践を試みた。また、iPadをはじめとするICTを活用することで、表現活動の多様性、生徒の学びに対する主体性を高める工夫も試みた。実践の結果、活動にやりがいを感じ、学びに主体的に関わる姿勢を育成することができ、実験・観察といった核となる学習活動だけでなく、学ぶこと自体に目的意識をもたせる、見通しをもたせる手立てとして、本研究における取り組みが効果的であることがわかった。

【論文内容の紹介】

1 基本的な考え方

実践に向け、以下の3点に着目し学習プロセスを構成した。

- 1 ジグソー法による主体的な学習活動
- 2 プレゼンによる学びの表現活動
- 3 ICTによる主体性・多様性の向上

2 ジグソー法とプレゼンの実践例

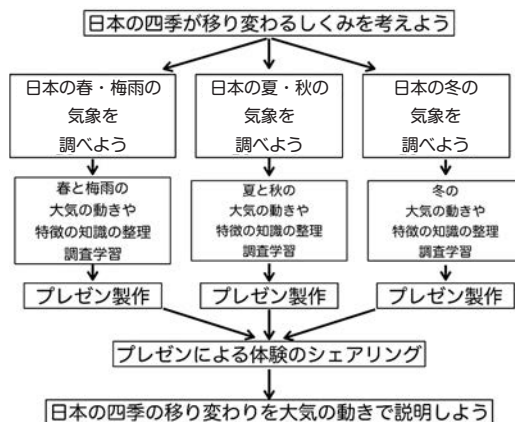
第二学年「地球」大気の動きと日本の四季

本実践ではジグソー課題としてそれぞれの季

節と季節間の特徴的な時期を取り上げ、シェアリングさせることで、四季の移り変わりを1年を通じた大きな動きとして捉えさせられるようにした。3冊のiBooksを作成し、生徒が知識や考え方を習得できるようにした。

第二次のプレゼン製作は、Keynoteを用いたスライド作成とした。加えて本単元ではスライド内に昨年1年間の天気図を取り入れることを条件として設定した。このため生徒自らが気象情報サイトを検索、閲覧し、天気図を選択する活動が展開された。

第三次のプレゼンは、公開プレゼン形式で、3グループが理科室内で同時にプレゼンを行う形態を実施した。教室内の3カ所の大ディスプレイにスライドを投影し、同時にプレゼンが開始され、聞き手は自由に移動しながらプレゼンを聞くことになり、より多くの聞き手を集めるべく工夫するグループが見られた。全3時間の学習展開を以下の図に示す。



3 成果と課題

実践する中で、ジグソー法を取り入れた実験・観察やプレゼンという活動に生徒がやりがいを見出し、学びに主体的に関わる姿勢を伸ばしていったように感じた。実験・観察といった核となる学習活動だけでなく、学ぶこと自体に目的意識をもたせる、見通しをもたせる手立てとして効果的であったと感じている。しかしながら、実践はいずれも、ある種固定された流れの中で

生徒が活動している。学びは本来、学ぶ者にとってより自由に選択し、自由な方法で、自由にアプローチすることで真の主体性・多様性が発揮されるものではないだろうか。パターンにとらわれないジグソー法、型にはまらないプレゼンを追及させていきたいと考えている。